

2020 年度

経済学部第 2 回入ゼミ説明会



目次

- p2 慶應義塾大学経済学部 学習指導主任 挨拶
- p3 経済学部ゼミナール委員会 委員長 挨拶
- p4-5 研究会(ゼミナール)とは
- p6 ゼミ選びにおける三田祭の活用方法
- p7-8 経済学部ゼミナール委員会とは
- p9-10 全塾ゼミナール委員会とは・他学部入ゼミについて
- p11 業界講演会について
- p12-13 分野別研究会総覧・目次
- p15~ 各研究会紹介
- p165~ For PEARL Students
- p184~ 説明会 会場全体図

第2回ゼミ説明会に寄せて

経済学部学習指導主任 駒形 哲哉

研究会は、皆さんにかけがえのない機会を与えてくれます。

第1に、自分自身で能動的に学ぶ機会を得られます。大学ではさまざまな分野における高度な知識を身につけなければなりません。それ自体が非常に大変であることは、皆さんもすでに強く実感していることと思います。しかしせっかく大学に進んだからには、そうして得た知識も生かしながら、自分自身で問題を見出して課題を設定し、文献・資料を見つけ、あるいは自ら調査を行ない、自分自身の結論を出す、そうした経験をぜひ積んでください。研究会での三田祭論文や卒業論文の作成は、その絶好の機会となります。研究会は、皆さんの取り組み次第で、オリジナルな知的経験を作り出す、貴重な場となりうるのです。

第2に、能動的に研究をするプロセスで試行錯誤を繰り返せる機会です。自分でテーマを選び問題を設定するまでには、たいてい、想定外の高いハードルがいくつもあります。通常科目のレポート課題や試験問題には基本的に模範解答の存在が想定されていますが、皆さんが社会に出てから直面する問題には解答がないかもしれませんし、問題があることは直感的に感じられてもそれがどのような問題であるかを認識すること自体がとても難しい、ということがよくあります。そうした事態に対処できるようになるためには試行錯誤を繰り返し、経験を積み重ねる以外に方法がありません。研究会では、卒業論文や三田祭論文を完成させるまでに、自分次第で何度でも担当教員に提出し、その指導を受けては改善し、最終的にこれでOKというお墨付きをもらうプロセスを実体験することになります。それは、自身による能動的な取り組みを基本としつつも、教員とのキャッチボールで学問的な成果を達成していくプロセスです。それは換言すれば、授業で提供されたヒントにもとづいてそつなく解答を仕上げるクレバーさを発揮することとはまた別の、むしろ失敗を恐れずやってみる勇気を持ち、失敗を重ねて成功への糧とすることのできる自分を発見するプロセスとなることでしょう。

第3に、研究会では、能動的な知的経験を同期のゼミ生を中心とした学生同士で共有する機会も得られます。三田祭論文は、その好例といえるでしょう。試験の準備をクラスの友人等と行なうこともあるでしょうが、この場合は、担当教員によって定められた問題とその正解を皆で見つけることが実質的に唯一の目的となります。これとは異なり、研究会での共同作業は自分たちで問題を定め、自分たちの答え・結論を求める作業です。そこでは、互いの意見がぶつかりあうことも少なからず起こります。それを乗り越えながら準備することはたしかに大変です。全員一致の結論を得られない場合があるかもしれません。しかし、困難のなかでも結論を導こうと試行錯誤するプロセスそれ自体が、将来にも有益な、貴重な経験となり、そうした経験を共有した仲間は大切な存在となるはずです。

こうしたかけがえのない機会を、皆さんが十二分に生かし、三田での勉学をより実り豊かなものとするのを、心より願っています。

経済学部ゼミナール委員会委員長より

経済学部ゼミナール委員会委員長

大垣昌夫研究会

経済学部3年 並木 大晟

空が深く澄みわたる季節。ジメジメとした夏が終わり、過ごしやすい気候になってきました。まず、第二回の入ゼミ説明会を無事に開催することができたことに、この場を借りてお礼申しあげたいと存じます。

さて、第一回説明会にて私は、入るゼミを決めつけることなく、色々なゼミを見て回ってくださいと申しあげました。今回もそれに関して少しだけ述べます。

前回、私の話を聞いてくださった方の中には、自分が思いもしなかった分野のゼミに興味を持った方もいたのではないのでしょうか。ゼミを選ぶ際に、みなさんが一番考えるであろうことは、何でしょうか。おそらく、「自分が学問のどの分野に興味があるか」ということなのではないでしょうか。具体的には、入学以前から興味があった分野、大学の授業で興味を抱いた分野、課外活動を通して興味を持った分野などの中から入りたいゼミを決めるのではないのでしょうか。多くの人は、上にあげた3つから自分の興味を決めてしまうと私は考えます。もちろん、自分の「学びたいこと」がはっきりしているということは、悪いことではなく素晴らしいことです。しかし、不思議なもので己を正確に知るといことは大変難しいことです。例えば、今自分が好きだと思っていることを突き詰めていくと、本当に好きなのかわからなくなってしまうことがあります。だからこそ見逃して欲しくないのは、入ゼミ活動をする上で見つけた新たな興味分野です。それを無視するということは、自分の可能性を狭めることであり、大変もったいないことです。自分が何に興味があるのかを模索することはとても難しく悩むものではありますが、せつかく整った環境があるので、真剣に考えてみるのも悪くないかもしれません。もちろん、ゼミは勉強だけをするのではなく、生涯を通して付き合いっていくような仲間と出会う場でもあります。ゼミの教授や先輩の人間性、全体の雰囲気といったところを大切な判断基準としている人もいるでしょう。人によっては、ソフトボールの強さやゼミの時間割も関係してくるかもしれません。いずれにせよ、噂を鵜呑みにするのではなく、自分の脚で正確な情報を集めるようにしてください。

長くなりましたが、以上のことを踏まえて前回同様に、色々なゼミを見て回ってくださいとアドバイスさせていただきます。最後までお読みいただきありがとうございます。また、いつでもご相談は承りますので、気軽に経済学部ゼミナール委員会にお声掛けください。

研究会(ゼミナール)とは

これから2年生の皆さんが志望を検討する「研究会」(ゼミナール)は、担当の教授の下で2年間に渡り専門的な研究、学習を行う三田ならではの専門教育課程です。慶應義塾大学経済学部のカリキュラムの中では研究プロジェクトやPCP、少人数セミナーと並び、少人数制の特色ある教育として挙げられています。また三田での生活は日吉での生活とは多少趣が変わり、ゼミナール活動が学習と生活の中心となるという学生が多くなるのも特徴です。この冊子をよく読み、ゼミ選びの参考としてください。以下は研究会(ゼミナール)の特徴となります。

1. 少人数制であり、選考試験がある

各研究会には定員数が設けられており、授業は少人数制です。学生同士、そして学生と教授の距離が近いことが特徴だと言えます。研究会は必修科目ではなく、また少人数制で履修生に限りがあるため、入会に際し選考試験があります。入ゼミ説明会の個別ブースなどで情報を収集し、準備はしっかりと行うように心がけてください。

2. 分野に特化しており、2年間にわたり履修をする

各研究会にはそれぞれの専攻分野があり、自分の興味や関心のある内容をより深く学ぶことが可能です。基本的に2年連続で同じ研究会に所属・履修し、第3学年末に4単位、第4学年末に8単位を取得することになります。研究会は必修科目ではなく、三田で履修することができる「専門教育科目」の中の「特殊科目」にあたる専門科目となります。

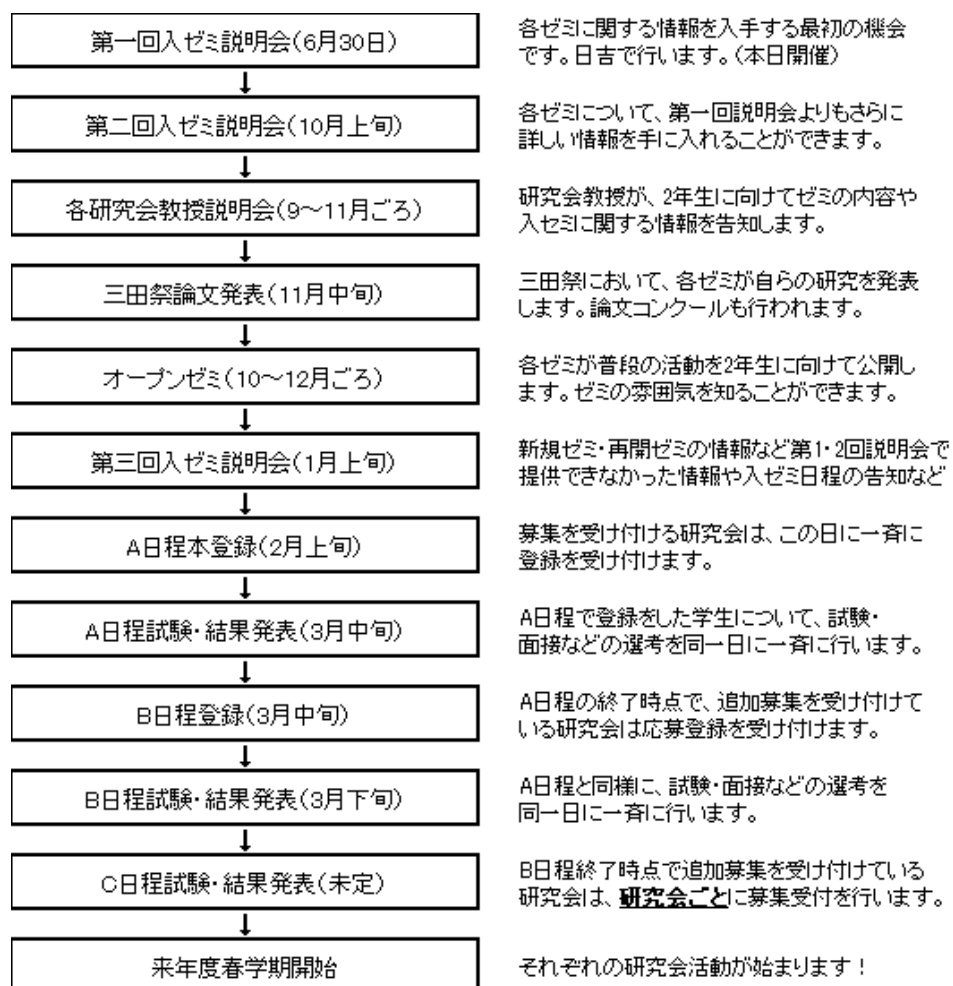
3. 4・5限にある研究会が多く、その時間の他講義が少ない

研究会の特徴からは少し離れますが、三田での生活についてです。三田の時間割を見たことがある方はさほど多くはないかと思います。三田で履修する科目のほとんどが日吉で学んだ経済学をさらに発展させた内容となる「専門教育科目」となります。その専門教育科目の講義型科目を担当している教員の方々が研究会を受け持っています。その研究会が4・5限に集中しているため、三田の通常講義の時間は1限から3限に非常に集中しています。ゼミによっては個別ゼミ必修科目を設けている場合がある為、自然と研究会中心の生活になる学生が多いようです。

☑ 入ゼミスケジュール予定(参考)

*具体的な入ゼミ日程については当冊子作成段階では未定となっています。確定次第Webで発表します。

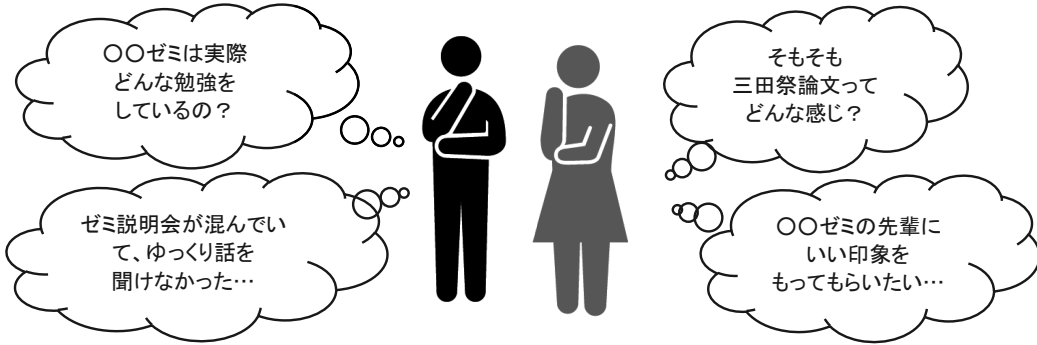
下図には、昨年度のスケジュールを参考に日程を記載しました。



ゼミ選びにおける三田祭の活用方法

研究会に入りたい2年生の方へ

三田祭論文のブースを上手く活用しよう！



困ったら三田祭論文のブースに行きましょう！！！！

* 三田祭論文とは？

各研究会で進めた研究について、三田祭で論文を執筆し発表することです。また、三田祭論文コンクールは慶應義塾大学内で最大規模かつ、多くの研究会が一同に会し論文を発表する貴重な場でもあります。

* ブースに行くと…

- ・自分の行きたい研究会が実際にどのような勉強をしているのか知ることができる！
- ・常に研究会員がブースに待機しているので説明会以上に詳しい話をゆっくり聞くことができる！

経済学部三田祭論文コンクール

三田祭論文について詳しくは<http://keizemi-keio.com/mitaron/>まで。

各研究会の三田祭論文について助教授に査定していただき、優秀な論文を執筆した研究会を表彰するコンクールです。ゼミ選びの一つの指標として参考してください！（以下前年度受賞ゼミと論文タイトル）

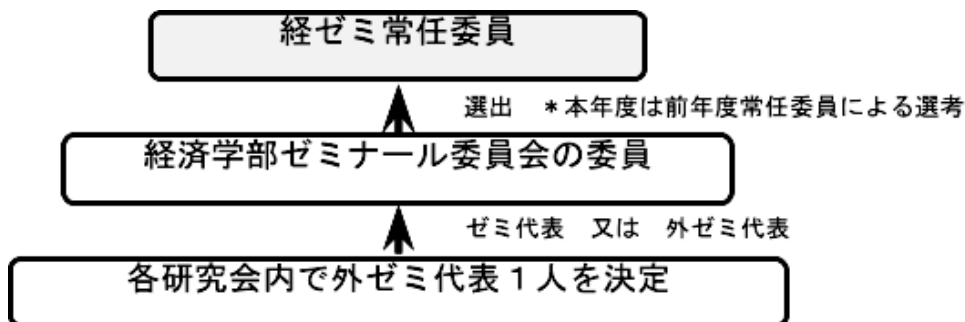
- ・金賞：廣瀬康生研究会：バブル経済化の安定化政策—DSGEモデルによる分析—
星野崇宏研究会：傾向スコアによるIPW推定量を用いたLGBT施策が収益に与える効果検証
- ・銀賞：赤林英夫研究会：障害者雇用が企業経営と同僚労働者に与える金銭的・非金銭的影響
企業パネルデータとフィールド調査・インタビューに基づく実証研究
田中辰雄研究会：W杯による国内リーグ観客動員数の増減
- ・銅賞：坂井豊貴研究会：災害ボランティアの最大マッチング実現に向けた提案
中西聡研究会：関東大震災を契機とした郊外化と「職住分離」

経済学部ゼミナール委員会とは

経済学部ゼミナール委員会（略称：経ゼミ）は、慶應義塾大学経済学部設置されている各研究会より1名ずつ選任されたゼミ代表を委員として構成される委員会です。慶應義塾大学の「上部団体・福利厚生等団体」に所属する団体となります。経済学部のゼミナールに所属している学生は1学年あたり約1000人弱います。この多くの人数を抱えた経済学部の各研究会間の親睦を図り、諸問題を解決し、入ゼミや三田祭論文発表などの各種企画行事を開催しています。そして経済学部から慶應義塾の興隆に寄与することをその目的としています。入ゼミは単位に関わるものでもあり、学事センターが管理していると思われがちですが、説明会や試験も学生の代表である経ゼミが学事や教授と協力の下、運営管理している点が特徴です。

☑ 経済学部ゼミナール委員会 構成

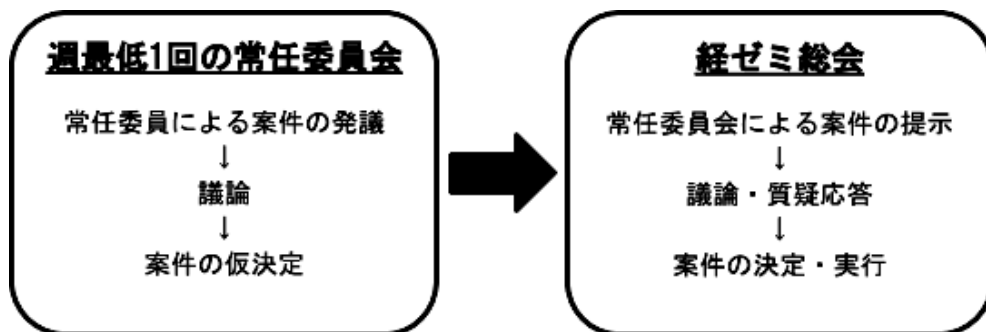
- ・会長 : 駒形 哲哉教授
- ・構成員 : 経済学部各研究会からの代表者
- ・常任委員 : 構成員の中から選出された十数名



☑ 経済学部ゼミナール委員会 目的・意義

- ・経済学部として慶應義塾大学の興隆に寄与する。
- ・経済学部の研究会相互間の親睦を図る。
- ・月1回、全構成員による総会を開く。
- ・週1回、常任委員による常任委員会を開く。

☑ 経ゼミ総会と常任委員会の現在の関係

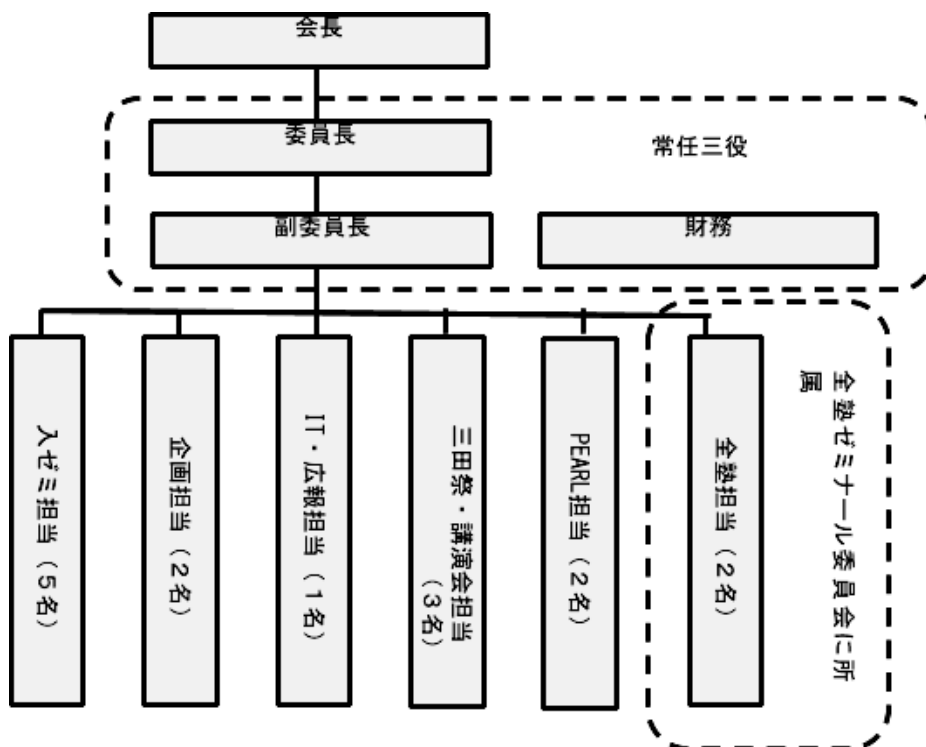


☑ 経ゼミは何をしているのか

- ・入ゼミの運営、開催（説明会の実施、資料作成、オープンゼミなどの実施、試験の管理）
- ・各研究会の三田祭における論文発表の場所確保、運営
- ・ゼミ内ゼミ間親睦の為にソフトボール大会など企画の運営
- ・各種講演会の企画、運営
- ・研究会活動の促進の為に問題提議と解決

☑ 経ゼミ常任委員とは

各研究会の外ゼミ代表より組織される経済学部ゼミナール委員会の委員から、それぞれの役職を持った常任十数名が選出されます。それぞれの担当が経ゼミ内の企画の仕事に責任を持ち、活動しています。伝統を守り、数多くのルーティンワークをこなしながら新しい企画の導入も検討し、現状の活動に問題がないかを常に考えていく姿勢が求められます。



経ゼミの常任委員になりたいという方は、まずは各ゼミの外ゼミ代表を目指してください。

- ・経済学部ゼミナール委員会ではウェブサイトでの告知を強化しています。
- ・入ゼミ関連情報を掲載中です。

経済学部ゼミナール委員会ウェブサイト：<http://keizemi-keio.info/wp/nyuzemi/>
経済学部ゼミナール委員会Twitter：@2019keizemi

- ・経ゼミに興味がある方、質問等は経ゼミブースへ
- ・また、入ゼミに関するお問い合わせ等は、keio.econ.nyuzemi2019@gmail.comまで

全塾ゼミナール委員会

【委員会構成】

全塾ゼミナール委員会は慶應義塾大学の公認団体であり、200 余りのゼミから成る各学部のゼミナール委員会を統括し、研究会活動に関する学生自治を任されています。当委員会は、下記の6つのゼミナール委員会からそれぞれ選出された10名により運営されています。

経済学部・商学部・法学部法律学科・法学部政治学科(各2名)

文学部人文社会学科社会学専攻・文学部人文社会学科人間科学専攻(各1名)

【意義】

本会は、各委員会に所属する研究会生の学術的活動並びに友好的交流支援により他学部他学科間の相互理解・相互連携を通して慶應義塾大学のアカデミズムの興隆に寄与することを目的とする。

(全塾ゼミナール委員会規約第1章第1条より)

【主な活動内容】

他学部入ゼミ支援

6月下旬より、2年生に対して各学部で入ゼミ説明会が行われます。学生は基本的に所属する学部のゼミに入会しますが、他学部生を受け入れている一部のゼミに入会することも可能です。そこで、学部を超えたゼミの情報収集の負担を軽減すべく、全塾ゼミナール委員会が情報提供をサポートします。

具体的には各学部の入ゼミ説明会でブースを出展、他学部入ゼミ説明会の開催、他学部入ゼミ冊子の作成、Twitter、Facebook ページ、ホームページを通じて支援致します。

業界講演会

塾生の皆さまが将来の進路を決定する際の一助となるよう、多岐に渡る業界で活躍するOBOGの方々の講演を、全塾ゼミナール委員会は企画・運営しております。毎年秋学期に開催しており、本年度も皆様からのアンケートに基づき講演会の企画を進めております。

全塾ソフトボール大会

毎年、各学部でソフトボール大会が行われます。そしてこのソフトボール大会で勝ち上がったゼミが、学部を超えて対戦するのが全塾ソフトボール大会であり、全塾ゼミナール委員会は大会の企画運営を行います。本年度は6月下旬に実施します。

- ・全塾 HP: <http://www.zenjuku-seminar.com>
- ・Twitter: @zenjuku_keio(全塾ゼミナール委員会)
@zenjuku_nyuzemi(全塾ゼミナール委員会 他学部入ゼミ)
- ・Facebook: <https://www.facebook.com/zenjuku.nyuzemi/>
- ・問い合わせ: zenjuku.seminar.nyuzemi2019@gmail.com

他学部入ゼミについて

全塾ゼミナール委員会では、学部を超えて他学部のゼミで学びたいという意欲的な方を応援しています。下記に各学部の入ゼミの簡単な予定とFAQを載せておきますので、興味のある学部の説明会に足を運んでみてください。詳細は全塾HPに随時掲載致します。

	文学部 人間学 科	文学部 社会学	経済学 部	法学部 法律学 科	法学部 政治学 科	商学部	他学部 入ゼミ
第一回 説明会	7/1	6/26	6/15	9/28	6/22	6/29	7/6
第二回 説明会	11月 下旬	11月 中旬	10/19	なし	10/5	10/26	10/12
第三回 説明会	なし	なし	1月 中旬	なし	なし	1月下旬	—
試験	1月 下旬	12月 中旬	3月 中旬	12月 中旬	2月 中旬	3月 中旬	—

* 上記は現段階で各学部ゼミナール委員会が発表しているものであり、今後日程が変わる場合があります。詳しくは各学部ゼミナール委員会のHP等で日程をご確認ください。

FAQ

Q.他学部のゼミに所属することはできるのでしょうか？

A. 入会したいゼミが他学部生を受け入れており、入会課題や面接などを受け、入会を認められた場合、他学部のゼミに所属することが出来ます。

他学部入ゼミは基礎学力の違い、単位上の問題などある程度リスクを伴うものです。しかし、全塾ゼミナール委員会は他学部のゼミを志望する学生に情報提供し、サポートを行っていきたく思いますので、どんな些細なことでもお気軽にお尋ねください。

Q.全塾ゼミナール委員会ではすべての学部・学科のゼミに関して相談に乗ってもらえるのですか？

A. 当委員会は、慶應義塾大学の三田キャンパスに所属する6つのゼミナール委員会（経済学部、商学部、文学部人文社会学科社会学専攻、文学部人文社会学科人間科学専攻、法学部法律学科、法学部政治学科の各ゼミナール委員会）から2人ずつ（文学部は1人ずつ）選出され、計10人で組織されています。そのため、上記以外の学部・学科については情報を提供できません。湘南藤沢キャンパス(SFC)、理工学部、医学部はもちろんですが、文学部教育・心理・美術その他専攻もこれに当たります。これらのゼミに興味のある方は直接そのゼミに連絡をとって頂くこととなります。

Q.自分の所属している学部のゼミと他学部のゼミの両方に所属することは可能ですか？

A. 可能です。ただし、2つのゼミを受験され両方入会を許可された場合、片方を辞退する行為は極めて失礼に当たるため、必ず両方に所属し全うして頂くようお願い致します。ゼミの活動は、予想以上に内容の濃いものです。時間的拘束など複数のゼミに所属するメリット、デメリットの両方を熟考の上、後悔しないゼミ選びをして下さい。

2019 年度業界講演会

『内に秘めた可能性を見出す3ヶ月』

～真に進みたいと思う自分だけの道へ～』

業界講演会とは、社会で活躍されている企業の方々に、その業界や社会の実情についてのお話をさせていただくというイベントです。23 回目となる本年度は、「様々な業界の講演に参加し、今まで知らなかった世界へと視野を広げることで、自分の可能性もより広げていってほしい」という願いを込めました。本年度は、全 26 企業 24 講演を予定しております。

【ご案内】

場所：南校舎ホール(三田キャンパス)、日吉キャンパス

時間 18:45～20:00 ※申し込み不要・参加無料

10/23	総合商社①	伊藤忠商事株式会社
10/24	消費財	P&G ジャパン
10/29	不動産	三井不動産株式会社
10/30	テレビ	日本テレビ放送網株式会社
11/1	官庁	東京都庁
11/8	飲料業界	サントリーホールディングス
11/12	総合商社②	三菱商事株式会社
11/26	航空①	日本航空株式会社
11/27	銀行	株式会社三井住友銀行
11/29	コンサル①	野村総合研究所
12/3	広告①	株式会社博報堂
12/4	食品	味の素株式会社
12/5	旅行	株式会社 JTB
12/10	証券	野村証券株式会社
12/11	不動産	三菱地所株式会社
12/12	海運	日本郵船株式会社

皆様のご来場を、心よりお待ちしております。 全塾ゼミナール委員会一同

※業界講演会とは、塾生の将来の展望を定め、学問研究の充実を図ることを目的としております。

企業の採用活動とは一切関係ございません。

＜研究会分野一覧＞

Pearl 欄に関して

○：Pearl 生を受け入れている。

*：日本語での議論が可能であれば○

×：受け入っていない。

分野	研究会名	専攻内容	PEARL
理論経済	大西広研究会	理論経済学	○
	尾崎裕之研究会	理論経済学	*
	栗野盛光研究会	マーケットデザイン	×
	玉田康成研究会	応用マイクロ経済学	○
	津曲正俊研究会	マイクロ経済学	○
	土居丈朗研究会	政治経済学・公共経済学・財政論	*
	中村慎助研究会	公共経済学	○
	廣瀬康生研究会	理論経済学	×
	藤田康範研究会	応用マイクロ経済学	○
	藤原一平研究会	マクロ経済学・国際金融論	○
	藤原グレーヴァ香子研究会	マイクロ経済学・ゲーム理論	*
	穂刈享研究会	マイクロ経済学、ゲーム理論	○
	和田龍磨研究会	国際マクロ経済学、計量経済学	○
金融	新井拓児研究会	確率論・数理ファイナンス	×
	伊藤幹夫研究会	ファイナンス	×
	小林慶一郎研究会	国際金融、マクロ経済学	*
	佐藤祐己研究会	金融論・応用マイクロ経済学	*
国際経済	秋山裕研究会	国際経済	○
	大久保敏弘研究会	国際経済、貿易	×
	木村福成研究会	国際貿易論、開発経済学	○
	駒形哲哉研究	国際経済(中国)	*
	櫻川昌哉研究会	国際経済	○
	白井義昌研究会	国際貿易、国際金融	○
	松浦寿幸研究会	国際経済	○
経済史	飯田恭研究会	経済史、環境史	○
	太田淳研究会	東南アジア経済史	○
	神田さやこ研究会	南アジア経済史	*
	中西聡研究会	経済史・日本経済史	○
	松沢裕作研究会	日本社会史	×
計量・統計	赤林英夫研究会	応用マイクロ計量経済学	○
	石井太研究会	人口学	○
	片山翔太研究会	統計科学、大規模データ解析、機械学習	*
	河井啓希研究会	計量経済、統計	×
	田中辰雄研究会	計量経済学、IT産業の実証分析	*
	長倉大輔研究会	計量経済学・時系列分析	×

	中嶋亮研究会	応用ミクロ経済学	*
	中妻照雄研究会	データサイエンス、とファイナンスへの応用	○
	星野正弘研究会	計量経済学・機械学習・行動経済学	○
産業・労働経済	石橋孝次研究会	産業組織論	×
	植田浩史研究会	労働経済学	×
	太田聰一研究会	労働経済学	*
制度政策	駒村康平研究会	社会保障制度、社会政策、福祉	*
	寺井公子研究会	公共経済学	○
	山田篤裕研究会	社会政策論(社会保障、雇用政策、医療経済)	○
経済学史・思想史	池田幸弘研究会	経済思想史・経済政策思想	○
	川俣雅弘研究会	経済学史	*
経済思想史	壽里竜研究会	社会思想、社会思想史	○
	難波ちづる研究会	植民地史、帝国史	×
経済地理	河端瑞貴研究会	経済地理	*
	武山政直研究会	経済地理、サービスデザイン	*
開発経済学	大平研究会	開発経済学・地域経済学	○
	山田浩之研究会	開発経済学	×
財政社会学	井手英策研究会	財政社会学	○
医療経済学	井深陽子研究会	医療経済学	○
行動経済学	大垣昌夫研究会	行動経済学	*
環境経済学	大沼あゆみ研究会	環境経済学	*
都市計画	長谷川淳一研究会	都市計画	×
PCP	PCP	英語による経済学個人研究	○
研究プロジェクト		個人の興味のある学問分野	○
PEARL	Ito Asei Seminar	Chinese and Asian Economy	
	Fukuhara Masahiro Seminar	Fintech & People Analytics	
	Kawabata Mizuki Seminar	Geographic Information System	
	Kimura Fukunari Seminar	International Economics	
	McKenzei Seminar	Economics of Family	
	Teruo Nakatsuma Seminar	Data Science and Fintech	
	Tatsuma Wada Seminar	Macroeconomic	

